

## パリコレッ！芸術祭 2019 竹のわっ！ 地域の魅力を竹で 竹楽器のコンサートや竹細工のワークショップ、マルシェも登場

2019年11月20日掲載



「東京楽竹団」のコンサートの様子

身近にある竹の魅力を体験する「パリコレッ！芸術祭 2019 竹のわっ！」が2019年10月14日、町田パリオで開かれました。古くから竹かごや食器、おもちゃなど生活の中で親しまれてきた竹の魅力を音楽や竹細工体験を通じて知ってもらおうイベントに親子連れなどが訪れ、にぎわいました。

イベントは、町田のさまざまな魅力を紹介し、町と人をつなげていく「まちだはまちだプロジェクト」の企画で、様々な芸術分野から町田パリオが「コレッ！」とオススメする“まちだのいいこと・いいもの”を紹介する「パリコレッ！芸術祭」の一つとして開かれたものです。

このイベントのメイン企画として、自ら竹林に入って切り出してきた竹で作ったオリジナルの楽器を演奏している「東京楽竹団」が、相原地区で身近にある竹を活用したオブジェで『竹あかりの街“あいはら”』をアピールしている「相原にぎわい創生プロジェクト」の竹灯籠でライトアップされたステージでスペシャルコンサートを行いました。



会場の様子



「東京楽竹団」代表の橘政愛さん(左)と「相原にぎわい創生プロジェクト」の土田恭義さん(右)

「東京楽竹団」代表の橘政愛さんは「竹を切るところから始めて、フィリピンの民族楽器バリンビンやバチで竹の切り口をたたいて鳴らす打楽器マウイなど日本にはない楽器を作っています。竹楽器の音はとても優しいと言われます。子供たちには、その音色を楽しんで竹を身近に感じてもらえれば」と話します。ステージを彩った竹灯籠を製作した「相原にぎわい創生プロジェクト」の土田恭義さんは「まちだ〇ごと大作戦で『竹あかりの街“あいはら”』をアピールしてきました。3月に相原駅前竹灯籠を点灯してから、相原以外にお住いの方にもその魅力を知ってもらい、いろいろなところから声を掛けられるようになりました。今回も竹をモチーフにさまざまな団体が活動していることを知ったので、新たなつながりをつくっていきたい」と話しています。



「東京楽竹団」のワークショップの様子(左)とワークショップに参加した親子(右)

「東京楽竹団」はワークショップも行い、参加者は自ら竹楽器手マウイを作り、楽団と一緒に即興で演奏を披露しました。相模原市から3歳の男の子を連れて参加した女性は「SNSで見かけてきました。とてもアットホームなイベントで子どもも楽しんで演奏していました」と笑顔を見せました。

ほかに、竹灯籠づくり、竹和紙漉きや竹笛、竹太鼓、竹ぼっくりなどのおもちゃなどのワークショップやアートの展示、町田でつくられた野菜やお菓子などが並ぶ「みんな de マルシェ」が開かれま

した。出展した「まちだ里のマルシェ」の実行委員会代表・増田久美子さんは「町田は自然が豊かで農業も盛んです。里山の維持のために伐採した竹をしっかりと利用していくことが大事なので、こういったイベントを通して多くの人に竹や里山に関心をもってもらえるのはうれしい。11月30日には野津田の里山で『まちだ里のマルシェ』も開かれるのでぜひお越しください」とアピールしました。



「まちだ里のマルシェ」実行委員会  
代表・増田久美子さん



「Welcome to MACHIDA Omotenashi PJT」の  
メンバー(左がリーダーの戸田隆さん)

通訳ボランティアの「Welcome to MACHIDA Omotenashi PJT」が外国人対応を含む会場案内を務めました。リーダーの戸田隆さんは「東京オリンピック・パラリンピックなどで町田を訪れる方をおもてなしし、町田に住む英語が話せる方の活躍の場を提供する活動をしています。ラグビーワールドカップではナミビア代表のイベントにも参加しました。今回のようにまちだ〇ごとと大作戦に参加する他の方々と協力してもっと町田を盛り上げたいですね」と感想を述べられました。

イベントを企画した町田パリオの櫻井久美さんは「パリオにある『まほろ座 MACHIDA』に東京楽竹団が出演したのをきっかけに、町田と竹をテーマに地域がつながるイベントをしたいと考えました。いろいろな方に快く参加していただき、竹を通じて子どもからお年寄りまで一緒に参加してもらえたのがうれしいです」と話しました。



町田パリオの櫻井久美さん

「パリコレッ！芸術祭 2019 竹のわっ！」の様子



会場の様子



会場の様子



竹紙すき体験コーナーの様子



竹灯籠制作の様子



「東京楽竹団」のコンサートの様子



「東京楽竹団」のコンサートの様子



「東京楽竹団」のコンサートの様子